

歴史・文化はまちを元気にする

越前市長 奈良俊幸



奈良俊幸 (なら・としゆき)

出身地 福井県越前市
学歴

昭和60年3月 早稲田大学政治経済学部
卒業

平成2年3月 財団法人松下政経塾卒業
職歴

平成3年4月から平成17年3月
福井県議会議員(4期)

平成17年5月 武生市長就任
平成17年11月 越前市長就任(2期目)

趣味 茶道(茶名は「宗俊」)

好きな言葉

「成功の要諦は、成功するまで続けるところにある」(松下幸之助氏)

越前市の歴史は大変古く、畿内から越

の国への交通の要衝として発展し、大化の改新の後に北陸地方では最も早く国府が置かれた地である。継体大王の伝説が残り、万葉集で歌に詠まれ、紫式部がたった一度都を離れて暮らした場所でもある。北陸道沿いには由緒ある神社仏閣が多く、戦国時代には激しい戦いが幾度となく繰り広げられた地である。

本市には、この歴史に裏付けられた伝統文化や伝統芸能、和紙や打刃物、織物といった生活産業文化、そして歴史的的文化財が数多く残っている。

1月には国の重要無形民俗文化財の「越前万歳」が味真野神社で舞われ、2月には継体大王の天皇即位を祝う岡太神社の「蓬萊祀」で、餅花に飾られた大きな山車が栗田部町内を賑やかに曳き回される。また「ごぼう講」の名称で知られる国中町の「惣田正月十七日講」が奇祭と

してマスコミを賑わす。

5月には紫式部公園での「式部とふじまつり」、紙祖神岡太神社・大瀧神社での「神と紙のまつり」、越前の里・味真野苑での「あじまの万葉まつり」と、本市の歴史文化を象徴するイベントが目白押しである。

8月には伝統工芸で身近な紙や鉄などを素材とする「丹南国際アートフェスティバル」で、独創的な芸術表現に触れることができる。

9月には国内外から演奏家を招いた滞在型の「武生国際音楽祭」が開催され、トップレベルの演奏家に加えて、若い演奏家を育てるアカデミーも定着している。

10月には全国の源氏物語ファンが集まる「源氏物語アカデミー」が開催され、源氏物語に影響を与えた風土と「紫きぶ御膳」を味わってもらおう。この催しも今年で25回目を迎える。

これら本市を代表する催事だけでなく、伝えられた歴史文化のどれもが、市民が永く育み、守り育ててきた貴重な財産であり、本市の歴史文化を理解するうえで欠かすことのできないものであると同時に、まちづくりを支える重要な基盤である。

しかし、近年の社会情勢や市民生活の変化、少子高齢化の進展で、継承することには新たな課題も発生している。地域社会では文化財や伝統文化、文化イベントを守り育てていく機運の醸成が危ぶまれていることもそのひとつである。

市では郷土の文化財や歴史を積極的に発信することに務めているが、併せて、子どものころから郷土の歴史文化に触れ、誇りを持ち、自信を持つて越前市のよさを後世に伝えることができる人材を育てていきたいと考えている。

そして、豊かな自然を生かし、先人が

連綿と築き上げてきた歴史や文化をまちづくりの基本として、さらに元氣な越前市を創造していきたい。



越前和紙の里 五箇地区の街並み



平家ゆかりの城福寺庭園(国指定名勝)



武生国際音楽祭2011